

平成20年度第5回 函館市地域福祉計画策定委員会 会議概要

日時 平成21年1月15日(木) 午後6時30分～8時00分

場所 市役所本庁舎8階第2会議室

協議事項

1 新計画について

2 その他

配付資料

(机上配付)

- ・ 策定委員会(1月8日)での意見・要望について(資料1)
- ・ 「課題解決に向けての基本的な方策」の見直し比較(資料2)
- ・ 地域福祉計画を推進していくための具体的な施策(資料3)
- ・ 課題解決に向けての基本的な方策(案)(資料4)

出席委員(15名)

池田委員, 落合委員, 金谷委員, 亀井委員, 木下委員, 熊坂委員, 小林委員, 齊藤委員
長倉委員, 永澤委員, 中村委員, 野村委員, 三浦委員, 三谷委員, 安川委員

欠席委員(3名)

後藤委員, 谷口委員, 松永委員

事務局職員

福祉部 岡田部長, 中川部次長

福祉推進課 川手課長, 亀田主査, 關主事

会議要旨

1 開会(午後6時30分)

關主事

- ・ 定刻となったので,平成20年度第5回函館市地域福祉計画策定委員会を開催したい。
はじめに,委員の欠席について報告する。後藤委員,谷口委員,松永委員については,
本日欠席する旨の連絡をいただいている。
- ・ 続いて,資料の確認をさせていただく。机上にお配りしている,資料1「策定委員会
(1月8日)での意見・要望について」,資料2「『課題解決に向けての基本的方策』の
見直し比較(6 意識の醸成)」,資料3「地域福祉計画を推進していくための具体的な
施策」,資料4「課題解決に向けての基本的な方策(案)」である。配付されていない方
はいるか。

2 協議事項

關主事

- ・ それでは，協議事項に入らせていただく。三浦委員長を議長として委員会を進めてまいりたい。

三浦委員長

- ・ 会議次第にしたがって進めてまいりたい。
- ・ まず，協議事項(1)新計画案について。資料が配付されているので，事務局から説明をお願いしたい。

川手課長

(協議事項(1)資料説明)

三浦委員長

- ・ まず，第4回委員会での資料1から資料3の協議結果に対する事務局案への意見をいただきたい。
- ・ それから，今まで協議いただいた基本的な方策をまとめたものが資料4である。これについても意見をいただきたい。本日全てをご覧いただくのは難しいだろうから，ご覧になって，後ほどご意見があれば事務局に連絡いただくことにしたい。
- ・ 最後に，これまで協議いただいた計画書の20～31ページ以外の部分で，何かご意見があればいただくことにしたい。
- ・ 前回，権利擁護の関連で三谷委員からご意見をいただいていたが，修正後の表現についてはいかがか。

熊坂委員

- ・ 資料2の1ページの黄色でマークしている「権利擁護に関する意識の啓発」ということは大変重要なことだと思っている。障がいを持っている人の為という意識で健常者が動くといった意識はもう私たちは改めていくべきだと思っている。共に生きていく，共生社会を作り上げていくということで，権利擁護のために様々なサービスがあり，行動を起こしていくことであれば良いが，その人のためという意識であれば，上下関係というか，弱者と強者のような位置関係を作ることになってしまうので良くないと思う。この権利擁護については，やはりその意義を十分踏まえて出前講座などで啓発していくしかないと思う。
- ・ 学校における福祉教育の関係は，もう少し計画的というか，もう少し考える手立てを示しながらやるべきかと思う。この間，総合福祉センターに小学校の生徒達が手話や要約筆記の見学にきていたが，技術というか，やっているということだけに目がいて，その場面でなぜ福祉が必要なのか，健常者が障がい者と共にやっていくためになぜこういうことをしていかなければならないのかという教育が後付けになっている感じがする。だから，教育委員会にはもう少しそこら辺の所を含めてやって欲しい。
- ・ 圏域設定やコーディネーターの関係でモデル地区を設定してやることについては，市内全域となると仕事の範囲が広く大変だから，仕方ないかと思う。しかし，この表現では計画期間にモデル地区を1か所やっただけでも計画を達成したとなるのではないか。

(熊坂委員(続き))

それでは足りない。モデル地区を設定してやるのであれば1年か2年やったら、翌年にはもっとそれを広めていく考えとか工夫を示して欲しい。計画期間に1つか2つの地区で実施しただけで満足されては困る。

中村委員

- ・ 前にも言ったが、いま熊坂委員が言われたようにこのような集まりが数年に1回しか開かれないのでは、手遅れになることがたくさんある。
- ・ 前回の資料での「住民の参加・人材の育成」の「現状の課題」での私の発言については、コーディネーターのことを指したのではない。人でなくても、例えばメーリングリストなどでも情報を共有出来るという趣旨である。インターネット等を活用して情報交換出来れば情報の共有が進むと思う。

木下委員

- ・ 「モデル地区で実践する」について、箇所数を示すのは大変かもしれないが、熊坂委員の発言の主旨を盛り込んで欲しい。難しいだろうが、できればということをお願いしたい。

三浦委員長

- ・ そういう主旨のご発言があったということを踏まえて今後整理をさせていただくこととしたい。
- ・ 他になければ次の資料4についての議論に進みたい。我々がこれまで議論を重ね、それを整理したものが、このように13ページにまとめられた。今の時点で気がついた点やご意見があればいただきたいが意見がないようなので、先に進めさせていただく。何かあれば後でうかがう。
- ・ 委員会が終わるごとに記録を起こしているが、私は間違いなく資料4に全部載っていると思っている。実際に一通り確認をしているのでご安心いただきたい。
- ・ これをもって資料1から資料4まで終わらせていただく。
- ・ 当委員会では現行計画の20ページから31ページまでについて議論してきたが、ここで地域福祉計画全体をご覧になってご意見等あればうかがいたい。計画の進行に関わってのご意見でも結構である。

三谷委員

- ・ 計画策定後の5年間の計画推進のプロセスについてうかがいたい。いろいろな文献を見ると地域福祉実働計画とか地域福祉実践計画みたいなものに落としているような事由も見受けられるが、この計画を行政が推進するのか、その具体的な実働計画とか実践計画を策定するような動きはあるのかどうか、全体像をもう一度おさらいしたい。

三浦委員長

- ・ この計画推進の所管はどこなのか。また、実践計画のようなものはあるかどうか、またはつくるかどうかについてのお尋ねである。

野村委員

- ・ 私も同じ意見である。やはり、計画の進行管理については当然行政の責任として担う

(野村委員(続き))

のだろうが、せっかくこのように有識者で計画を審議したのであれば、進行管理についても何らかの民間レベルの方々の支援なり意見なりを入れながら進めていくような、そういう委員会あるいは部会なりを設置して、これをより実行性あるものにしていくという考えがあった方が良いのではと思う。三谷委員の発言との関連で、意見というか提案である。

三浦委員長

- ・ 実践段階においてこの計画の進行管理のあり方、所管、また、具体的な実行にあたっての質問である。社会福祉協議会では地域福祉実践計画があるので、いずれ見直しがされと思うが、その辺について事務局から発言願いたい。

三谷委員

- ・ 市の計画と社会福祉協議会の計画とのつながりについてもうかがいたい。

川手課長

- ・ 三谷委員のおっしゃった地域福祉実働計画あるいは実践計画というのは、一般的には活動計画という呼び方だと思うが、函館の場合は地域福祉実践計画としている。行政が作るのが現在協議いただいている地域福祉計画である。それに対して、各団体の活動に特化した位置付けを持つ計画として社会福祉協議会で作るのが実践計画である。市の計画とは別の計画であるが、趣旨としては地域福祉の活動などをどのようにして進めていくかというもので、目指すところは同じである。
- ・ 木下委員に確認したいが、地域福祉実践計画は団体の活動に特化していて、市の計画とは別のものという考え方で良いか。

木下委員

- ・ 私の考えは少し違うが、そういう方針だということで理解している。

川手課長

- ・ 社会福祉協議会で実践計画を策定していることと、現計画を策定した当初に活動指針的な位置付けで実践計画の要素も含んでいたことから、今私どもがつくっている新計画についての実践計画の策定については特段考えていない。
- ・ 実践にあたっての進行管理については、これまで、活動指針的なものを目指して作った計画ということもあり、地域福祉計画を地域の皆さんに知っていただくという趣旨で地域懇談会の開催を中心にしていた。そういったこともあり、具体的に計画を進行管理する委員会は設置していない。今回も、そういう発想でこれまで来たし、モデル地区における具体的な事例等もイメージしていなかったもので、現段階では委員会立ち上げの経費はもっていない。予算の関係があり、来年度すぐに設置するとはいえないと思うが、皆さんから意見をいただいたので、今後検討させていただければと思う。
- ・ 先ほどモデル地区での実践の表現について、たった1か所で終わってしまうのではとご意見をいただいた。もちろん、1か所で終わらせるつもりはないので、部長と協議した結果、資料4の13ページ「3 モデル地区での実践」の後段部分「～モデル地区で実践し、検証することとします」を「モデル地区で実践し、検証したうえで区域の拡大

(川手課長(続き))

に努めます」としたい。この場でみなさんに同意いただければ、修正をさせていただくので審議をお願いしたい。

三浦委員長

- ・ 資料4の13ページ「検証したうえで区域の拡大に努めます」と表現を変更するということだが、いかがか。

委員

- ・ 異議なし。

三浦委員長

- ・ アクションプランなどについての説明をいただいたが、そのなかで市民の参画、そういうものを抱えた評価・検証のための委員会設置という趣旨も入っていたということであった。新計画には「地域福祉計画を推進していくための具体的施策」を加えたこともあり、数年に1回ではなくて、計画の推進そのものについて常に評価・検証が必要だと思う。市民に浸透したかどうか、市民の皆さんの満足度がどのくらい進んだか、あるいは市民の皆さんや地域の皆さんの行動がどのように変わったか、この計画の実践によって変わっていったのか。これらの検証がなければ進行管理をしていないに等しい。そういう意味で進行管理あるいは検証を司るものが欲しいと思う。

木下委員

- ・ この計画を市民にアピールして根付かせるためにも、進行状況を検証するためにも、学校の授業等で取り上げるためにも、全て予算が必要になると思うので、ぜひ確保していただくようお願いしたい。
- ・ 市民に対して、これを配って読んでくださいと言っただけでは、理念を普及させるのは難しいと思う。懇談会や町会の総会など、あらゆる手段を使って訴えていくことが必要なので、そういったことも視野に入れて検討して欲しい。

野村委員

- ・ 資料4の最後の具体的な施策について、「検討します」ではなく「設定します」となり、また「コーディネーターを設置します」など言い切りの文章になっていることに非常に感心している。そこまで踏み込んで今回の施策の案を作っていただいたことは市の積極的な姿勢がすごく伝わってきて、私はとても素晴らしいと思った。
- ・ 木下委員からもお話があったが、地域福祉コーディネーターが設置された場合には、検証する委員会は表面的に進行管理を行うだけではなくて、例えば地域でいろいろな福祉活動をしている市民団体なり各関係団体の実務レベルの方々に集ってもらって、地域福祉コーディネーターと一緒に地域で活動を進めていくというようなものであれば、コーディネーターの支えになるのではないか。地域福祉コーディネーターだけがいきなり配置されても、調査を一からやらなければということになると、そこでつまづいてしまう。
- ・ 予算がないので委員会を開催できないということではなくて、無償でも参加してくれる方々を集めていく。進行管理の委員は無償で参加してもらうことでも良いと思う。そ

(野村委員(続き))

ういものを考えていけばどうかということで併せて提案したい。

中村委員

- ・ 野村委員が発言したとおり、地域で懇談するということは大事だと思う。
- ・ 市民から上の人にまで声が届く仕組みのメーリングリストを作り上げれば役に立つと思う。

岡田部長

- ・ 皆さんからいろいろなご意見をいただいた。進行管理については検証可能なものもあるが、検証するデータをそろえることが難しいものも含まれている。したがって、どの程度できるかということも含めて、前向きに検討させていただきたい。
- ・ それから予算確保やメーリングリストについての意見もあった。それらも併せて、検討したうえで、後日、どういう機会になるかは現時点ではわからないが、何らかの形で皆さんにご報告させていただきたい。ただ、新しい年度の予算で措置することについては、現時点では不可能なこともあるので、新しい年度にどれだけできるか今はお約束できないが、いずれにしてもご意見を踏まえて検討させていただきたい。

三浦委員長

- ・ 岡田部長から大変前向きなご発言を頂戴した。他に今の件に関連して意見をいただきたい。

齊藤委員

- ・ 前回、前々回と出席できなかったが、これまでの記録を見ると、現計画策定の時と随分変わったと感じ、この数回の委員会で計画案がここまで具体的になっているということに感動を受けた。今言われていることは本当に難しいことかもしれないが、ぜひ前に進めていただきたい。

木下委員

- ・ 策定が始まったときは、作ってもどうせ流されるだろうという感覚があったが、今日の事務局のみなさんの発言でこれは何とかやっていけるのではと安堵感が生まれてきた。そういう意味では大変感謝している。

熊坂委員

- ・ 地域懇談会には2か所しか参加できなかったが、地域の人といろいろ話をした。そのなかで一番印象に残っているのは、桔梗で子ども会がなくなった話題が出た時のことである。そこには町会の方やPTAの方もいたが、これからどうするかという話にならない。地域の人はどこへ相談したり、どうすればよいか分からない。そこで、コーディネーターを設置して、解決する方向に導いてもらう。または、相談することによって関連する団体とつながることによって解決されていくのではないか。そういった仕組みをうまく作り上げていって欲しい。
- ・ 野村委員が発言した進行管理の会議は必要である。費用がかからないようにするには、ボランティアでもいいし、頻度は多くなくても良いが、まず集まって自分たちの持ってきた情報なりを、そこで出しながら議論する。あるいは福祉部の方から地域懇談会のな

(熊坂委員(続き))

か出てきた意見を検証してもらったりしていくことで進行管理というものができていくと思う。そういう体制を作り上げていかなければならない。

- ・ 中村委員が発言したメーリングリストについては 私も他の団体の仲間とやっている。そこでは自由に意見を出せるが、名前を出すので、責任をもって意見を出さなければならないし、相手も責任をもって聞いてくれる。そういった体制というのは、現代社会では必要なかもしれない。

木下委員

- ・ ここにいる委員の皆さんのなかで有志の方だけでよいが、熊坂委員をはじめ皆さんが言っているとおり、我々が無償で何か月に1回ここに集まるのはいかがだろうか。そうすれば実践段階についての報告や問題点などについて議論したり、計画推進の後押しをしたりできると思う。
- ・ この計画の中身を全然知らない人が検証するよりも、実際にここで話し合った私たちが検証する方が効率が良いと思う。

三浦委員長

- ・ 熊坂委員、野村委員から地域福祉コーディネーターについて発言があった。非常に役目が重い感じがするが、それをうまくカバーして地域に浸透させる意味で、これからの時代はボランティアとか、そういう方々の参画も一緒にいただいてつながりを持っていくとより広いもの、深いものになるという意見であった。
- ・ 木下委員からは、当委員会の委員のなかから有志が集まって計画の進捗を見守ることも可能ではないかと。それこそ委員の協働という形であるかもしれない。

木下委員

- ・ 市は評価されるようなことをしても、広く知られなければほめられることはない。だから、こうした場は何か実行されたときに、皆さんの労をねぎらう席にもなると思う。そういった言葉は実際にやっている人達にとっては大きい力になると思う。皆さんは、文句を言われることはあっても、なかなか評価されない部署でもあると思う。
- ・ そういうようなことも含めて、決して計画推進に文句を付けるためだけの場ではなくて、福祉部から相談されるような場であれば良いと思う。

三浦委員長

- ・ まだ発言されてない方でご意見があれば頂戴したい。PTA連合会の安川委員、長倉委員からお願いしたい。

安川委員

- ・ 私は、申し訳ないが、1回目からどこか落としどころがあって、この委員会が進んでいるのではないかと疑念に思っていたが、手直しされて最終的には行政としては珍しい言い切りの文章になったので評価したい。これをOBとして見ていくのも私たちの責任ではないかと思った。
- ・ このモデル地区での実践のなかに、「拡大」という言葉をつけていただいた。高齢者の多い地域、また、新興住宅地を含めて子どもが多くなった地域などがあるが、私も子を

(安川委員 (続き))

持つ親であるから、地域ぐるみで子どもを見守っていけるような、そんなモデル地区も作っていただきたいと思う。高齢者、障がい者に関してはマスコミなどで報道されることが多いが、子どもに関しては事件等を起こしたり、巻き込まれたりしなければ話題にならない。子どもに対して地域でもっと目を向けて、声を掛けて、育てあげていただきたい。学校で福祉教育を進めていただければ大変ありがたいが、なかなか今の授業カリキュラムのなかでは難しいと思う。少しずつでも進めていただければと思う。この会に参加させていただいたことを感謝申し上げる。

長倉委員

- ・ 子どもに関する思いというのは安川委員と同じような気持ちを持っている。私も今回このような貴重な経験をさせていただき、福祉についての勉強になった。これをひとつのきっかけとして、福祉に関心を持ち、先ほど木下委員の発言にあった、進行管理等の集まりがあれば、微力ながら私も参加させていただきたいと思っている。

三浦委員長

- ・ 在宅福祉委員会から出席いただいている永澤委員はどうか。

永澤委員

- ・ 在宅福祉委員ということでお年寄りとの接点が大変多く、これまでの会議のなかで出ていたように、引きこもりだとか、閉じこもりの方はうちの町会にも相当数いらっしゃる。
- ・ 在宅福祉委員を引き受けてくれる方は少なく、在宅福祉の対象となるような人が在宅委員として面倒を見ている状態である。そのため慢性的な委員の不足に悩んでいたが、待っているだけではだめだということで、昨年あたりから積極的に民生委員の方達にお願いをして、活動に協力してくれそうな方を探したところ、働いている女性の方や男性の方も入ってきた。男性の方が入ってくれたおかげで一人暮らしの男性の対象者も増えてきた。また、積極的に協力者を探すことにより、定年を迎えて何か地域の役に立ちたいが、どうしたらいいかわからなかったという方が3名入ってくれた。
- ・ 在宅福祉委員だけではなく、民生委員や町会の役員もやっているのだから、障がいのある方、子ども達にも関わりを持たせていただいているが、一つ残念だなと思ったのは昨年在宅福祉委員会に障がいを持った方を連れてきた方がいた。そのときに委員のなかに障がいを蔑視する方がいて、ものすごい勢いでものを申したため、口論になった場面があった。その時に、やはり誰でも参加できる委員会であればならないと改めて実感させられた。
- ・ 先ほど発言があった進行管理について、ボランティアでも良いので一緒にやって欲しいということであったが、私もこれに参加したいと思った。というのは、町会で来年度ちょっとしたサロンを作って、高齢者、障がいのある方、子どもたちなど誰でも出入りができるようにして、休日限定で開いてみようかと話をしている。しかし、知識がないので、そういった部分について意見や助言をいただきたいと思っており、皆さんが集まるのであれば、私はボランティアでも参加したいと思っている。

三浦委員長

- ・ 地域福祉の実践ということでの意見であった。在宅福祉委員という函館市ならではのシステムもあるわけだが、お年寄りがお年寄りを世話するという状況が多くなってきている。永澤委員がおっしゃったように、若い方、企業の方、ボランティアの方、NPOの方など、いろいろな人達が加わっていけば、なお活性化されるであろう。これからの函館の地域福祉活動の活性化の一つの手法として考えられる。
- ・ 皆さんにご意見をうかがいたい点がある。現計画を作ったときに「地域福祉計画」と名称を掲げたが、本文のなかで「これは活動の指針です」と述べている部分が3か所ある。私はこれまで委員会で検討するなかで 新計画については単なる指針ではなくて堂々と計画と言い切っていくべきと思う。確かに 定量的な目標というのは載っていないが、定性的な、まちをこうしよう、活動をこうしようというようなまちづくりの手法が明解にされながら計画がレベルアップしていると思う。ましてや進行管理ということも本日の発言により実行されていくとすれば、計画と言い切る方が住民の皆さんも理解しやすいのではと思う。
- ・ 地域福祉計画といいながら、本文のなかで実は活動の指針といっている点に曖昧さというか、姿勢の弱さを感じずにはいられない。そういう意味で、全体を整理するなかで、この辺についても精査いただければありがたい。

岡田部長

- ・ 国が地域福祉計画のような従前の行政からは考えられなかったものを作るように求めた背景を考えていくと、それは、ひとえにコミュニティの希薄化が根底にあると思っている。
- ・ そういったなかで、委員長からご指摘があったような端的な言い切りができるのかどうか、今にわかにお答えすることが難しいが、少し検討させていただきたい。確かに先ほど高い評価をいただいたとおり、うちのスタッフは大胆なもので従前の行政では考えられないような、大胆な踏み込んだ考え方をしている。そのため、目標くらいの表現であれば可能かと思うが、計画として大上段に構えて本当に実践できるのかという点では若干の迷い、躊躇がある。そういったことも含めて、真摯に受け止めて検討したい。

三浦委員長

- ・ 全体に関わっての意見が他になればこれで終わらせていただく。
- ・ 協議事項(2)その他について委員の皆さんから何かあるか。

委員

- ・ 特になし

三浦委員長

- ・ 計画策定までの今後の進め方について事務局からお答えをいただきたい。

亀田主査

- ・ 本日検討いただいた内容については、今後、正副委員長と細かな点について修正を加えさせていただきたいと考えているがよろしいか。

三浦委員長

- ・ 了解した。

亀田主査

- ・ また、当初申し上げたとおり、この委員会で協議いただいたのは、計画の中核となる基本的方策部分であり、今後は事務局側で計画書の前半にある計画の説明部分、そして計画書の後半にある資料編について整理したものを併せて庁内整理を行い、2月にはパブリックコメントにより広く市民の方々からご意見をいただくとともに、議会にもお諮りしながら今年度中に計画書を策定することとしている。なお、計画の全体像がまとまった段階で最終案という形で委員の皆さんに参考配付したいと考えている。

三浦委員長

- ・ 亀田主査から説明があったとおり、これまで皆様からいただいたご意見を最大限尊重しながら、最終的な表現や文言整理等について、計画全体のバランス等をみながら我々正副委員長と事務局で精査させていただき、最終案ができたなら皆様方にも配付するということである。そういう扱い方でご了承いただきたいが、よろしいか。

委員

- ・ 異議なし

三浦委員長

- ・ 感謝申し上げます。以上である。

亀田主査

- ・ 福祉部長から一言ご挨拶を申し上げます。

岡田部長

(挨拶)

三浦委員長

- ・ 議長として、最後に挨拶を申し上げたい。9月4日の第1回委員会から本日の第5回まで委員の皆様にはそれぞれのお立場から建設的なご意見、活発な議論をいただき、また委員会の運営にご協力いただき、感謝申し上げます。
- ・ アンケート調査や地域懇談会での住民の声を踏まえ、委員の皆様からはこれからの地域福祉のあり方という視点に立って計画の見直しについて検討をいただいた。
- ・ このことにより函館での地域福祉の着実な推進のため、本日話題となった圏域の設定や地域コーディネーターの設置、モデル地区での実践などの新しい考え方を取り入れて地域福祉計画としての形を整えることができた。
- ・ 地域福祉の視点に立った、いわば函館のまちづくり計画である。この先は行政と地域関係者、市民の皆様が一体となって計画推進の評価・検証を行いながら函館市内全域にみんなで支え合うという地域福祉の思想が行き渡っていくことが期待される。
- ・ 委員の皆様はそれぞれの立場にお帰りになって身近なところから地域福祉の推進にご尽力いただくよう期待を申し上げます。4か月にわたる計画策定委員会委員としてのご協力に改めて感謝を申し上げ、挨拶とさせていただきます。
- ・ 以上をもって地域福祉計画策定委員会の全日程を終了させていただく。(午後8時)